鬼怒川ふれあい道路について

佐藤 剛史 議員

答弁 県要望として積極的に行う

議員 鬼怒川西部地区においては幹線らしい幹線がない。鬼怒川ふれあい道路は常総市の発展につながる。鬼怒川西部地区の現状と現在の進捗状況は。

都市建設部長 現在の進捗状況は、常総工事事務所管内の延長約29キロメートルのうち19・4キロメートルにおいて整備済み及び既設道路を利用して供用を開始している。整備中の区間の状況は、茨城県による整備箇所が3か所で、一つ目が、主要地方道取手豊岡線バイパス（常総市豊岡町から坂手町）の延長1.5キロメートル、二つ目が、主要地方道つくば古河線（八千代町仁江戸地内）の延長0.4キロメートル、三つ目が、県道高崎坂東線（八千代町坪井から高崎地内）の延長1キロメートルであり、早期供用開始を目指し用地取得及び工事進捗に努めている。また、県道高崎坂東線（常総市篠山から古間木地内）においては、合併特例債及び国庫補助金を活用し、令和2年度内に供用開始予定である。未着手の本市大生郷工業団地に接続をする南北の4.8キロメートルの区間については、概略線形のままとなっている。

議員 当市のみならず県西地区にとって重要な役割を果たす道路だが概略線形のままとなっている豊岡から大生郷・古間木地区の2か所においては現在の工事区間である取手豊岡線の工事が終わる前に計画決定をしなければ、継続した事業にならず途切れてしまう。切れ目のない事業として未着手部分の路線についての早急な対応が望まれるが、期成同盟の会長である市長の見解は。

市長 常総市内五つの工業団地等を連結する道が途中でボトルネックになっている。線を入れてもらい、1本、道を常総市内に通すべく直接知事要望させていただいた。将来の展望として活動を積極的に行っていきたい。

アグリサイエンスバレー構想をより良いものに！

関 優嗣 議員

答弁 市長を先頭に一丸となって取り組んでいく

議員 最寄りや県内でオープンした道の駅と、今常総市がやろうとしている道の駅とを比較して、当市より予算をかけた所もあるようだが、執行部はどのような捉え方をしているか。

副市長 総事業費は約16億円、県内他の道の駅の事業費については、常陸太田約14億円、常陸大宮約20億円、筑西約40億円と試算されている。

また、本市の道の駅の最大の特徴は、常総インターチェンジ近接という好立地に民間との連携により価値を向上させる仕組みをとっている。道の駅整備として2ヘクタール、隣の民間側の2ヘクタールと合わせて約4ヘクタールを一体的な集客施設、集客エリアとして整備し、更に都市公園、観光農園との連携を図ることで、最小の経費で最大の魅力を創出し、集客効果を向上させる想定ができる。

議員 拠点としての役割、まちづくり、賑わいづくりへの構想、展望、可能性はあるか。

副市長 常総市の広範囲を活性化するための、まさしく地域振興の拠点とするものである。

一つはサイクリングロードの活用。もう一つは、農業を観光の切り口として生かしていく。将来を見据えた観光地域づくりのための取り組みを、できるところから速やかに進めているところである。

議員 コロナ禍だからできる取り組みについて。

アグリサイエンスバレー推進チーム参事 農産物がより売れる仕組みづくりとして、消費者から直接インターネットで注文を受け、産地直送で届けるシステム等、道の駅を拠点にそのようなサービスができないか検討していきたい。